

3. 会員名簿発行について

- アンケート回収が少ないため、方針決定が不能。高知大会等でもキャンペーンを行い回答数を増やすことにした。7割程度のアンケート回収を発行の最低条件とするが、年度末までに到達しない場合には、次年度に事業を繰り越さずに、名簿発行事業について根源的に検討し、評議員会に提案することとする。
- 今年度事業での発行に努めることとし、アンケート回収手段をさらに検討実施する。なお、事務局からの学会連絡用のメールアドレスはアンケート調査に利用できない。高知学会の受付でアンケート回答を集める。
- 12月の評議員会への報告に向けて、選挙管理委員会の了承を得た上で、選挙投票の際に最後のアンケートを同封して回答を集計することとする。

4. 見学旅行案内書の補遺に伴う、編集規約等の改正案

- 編集委員会より、編集規約等関連規約の改正案が提案され、検討した。見学旅行案内書編集委員会の位置づけについて、地質学雑誌編集委員会の下に置く方が、修正案の大会実行委員会内に置くよりも良いのではないかと意見が出たが、大会の場での編集が実態を反映していると判断し、修正案を承認した。

2006年度 第4回理事会 議事録

2006年10月14日

期日：2006年9月15日（土）

13:00~14:00

場所：高知市文化プラザ 中央公民館 第3学習室

出席者：木村会長、佃副会長、天野副常務理事・Wallis・上砂・大友・狩野・公文・倉本・高橋・久田・宮下・向山 各理事、三宅評議員会議長、橋辺（事務局）、
欠席理事：伊藤副会長、渡部常務理事・増田

*成立員数（12/1）に対し、出席者14名、委任状2名、欠席者1名で、理事会は成立。

○審議事項

評議員会への報告事項、審議事項の内容確認および配布資料確認。

2006年度 第2回 定例評議員会議事録

2006年10月14日

日本地質学会評議員会

議長 三宅康幸

副議長 新井田清信

日時：2006年9月15日（金）

14:00~17:00

場所：高知市文化プラザ 中央公民館 第3学習室

出席者：木村 学会長 佃 栄吉副会長
（評議員 20名）<07年任期> 安間 恵
永広昌之 国安 稔 田崎和江 田近 淳
新妻信明 三宅康幸 横山俊治 <08年任期> 石垣 忍 石渡 明 井内美郎 井龍康文 岡 孝雄 小山内康人 酒井治孝 徐 垣 新井田清信 針金由美子 松田博貴 丸山茂徳
（理事12名）天野一男 上砂正一 大友幸子 狩野謙一 公文富士夫 倉本真一 Simon WALLIS 高橋正樹 中山俊雄 久田健一郎 宮下純夫 向山 栄（事務局）橋辺菊恵

欠席者 評議員（委任状19名）：会田信行 浅野俊雄 足立勝治 阿部国広 荒戸裕之 安藤寿男 磯崎行雄 板谷徹丸 加藤 進 紺谷吉弘 柴 正博 納谷友規 楡井 久 保柳康一 矢島道子 山路 敦 松岡 篤 脇田浩二 渡辺真人

欠席者 評議員（委任状なし1名）：巽 好幸
理事（3名）：伊藤谷生副会長 増田富士雄 渡部芳夫

*成立員数（21/40）に対し、出席20名、委任状19名で、評議員会は成立。

*小山内康人、松田博貴両評議員を書記に選出。

○報告事項

I 理事会報告

1. 運営財政部会（部会長-上砂、中山、向山、大友）

1) 総務委員会
庶務関係（担当理事-上砂）

・日本科学技術振興財団：青少年のための科学の祭典2006（2006年8月）後援
・第14回「ゼオライト夏の学校」協賛、および「第22回ゼオライト研究発表会」協賛

・日本粘土学会「第50回粘土科学討論会」共催

・21世紀の地学教育を考える大阪フォーラム実行委員会子供のためのジオカーニバル企画委員会：第7回子供のためのジオカーニバル2006（2006年11月11日~13日）後援

・朝日新聞社：第4回ジャパンサイエンス&エンジニアリング（JSEC2006）高校生科学技術チャレンジ（平成18年6月~19年5月）後援

・社）計測自動制御学会：第32回リモートセンシングシンポジウム協賛

・応用地質学会：応用地形学講習会（11月24日）協賛

・海洋調査技術学会：第18回研究成果発表会（11月9日~10日）協賛

・今年度事業として産業技術総合研究所と共同研究契約を締結した（4月3日付け）。

研究題目：「地質科学分野におけるオンライン化の将来動向に関する研究」

・若手の賞新設に当たり、新メダルを作成。次年以降は各賞全てに使用する。

JABEE委員会（委員長-福澤仁之）

・書面にて報告あり（本号別掲載）

会員関係（担当理事-中山）

前回から今回までの入退会ほか

(1) 入会

正会員（15）：岩崎毅吏、久保篤規、高橋かづ江、小野雅弘、山口正秋、森 良太、棚橋道郎、山本伸次、水上知行、ティモシー パーン、モア グレゴリー、齋藤洋輔、趙 大鵬、三和 公、朝日博史

正会員割引（79）：野崎達生、後藤 当、上田直人、濱村直弘、溝部かずみ、町 澄秋、上妻玲馨、富田 覚、宇佐見和子、伏木 治、山中晶子、宮川歩夢、五十嵐雄大、三浦知洋、草宮尚隆、宮副智之、田所弘行、影山典史、昆 慶明、吉田広人、室田真宏、川井隆宏、穴田真一、本多 結、山本 巨、新納亜希子、伊牟田みはる、二階蔵見、鈴木友香里、真木祐典、庵谷奈津子、武田史明、松井真理、榎本洋輔、清水 瞳、毛利崇、大浜敏樹、福成徹三、森本隼平、播磨雄太、イスラム エムディ ラフィクル、ドゥヴェディ スニル クマル、ジョシガネス ラージ、川村明加、中村 慧、中野大智、梅原綾乃、岡本直也、米島真由子、高谷真樹、高橋功治、塚本祐也、玉原正之、大城広樹、田中大地、松原拓穂、菊池直樹、バキロフ アザマト、石川智子、大井剛志、八木裕介、西田慎一、澤木佑介、野地耕平、節田祐介、葦葉陽子、佐久間広展、木下和也、平城兼寿、杉原 誠、菊池岳人、花井健太、渡辺悠太、西村啓介、北條 愛、李野修士、長谷川孝宗、内藤 忍、ランジャン クマール ダハル

準会員（15）：廣瀬祐市、峯村純子、田阪美樹、桐川隆之、樋口衡平、角田絵理、相澤育実、岩本はるか、尾吹 萌、高柳栄子、佐津川貴子、伊東佑子、村本政史、守安誠、上原康裕、

(2) 退会（9、正のみ）

藤沢亜希子、江崎弘造、伊豆隆太郎、島野裕文、猪野恭平、藤井 諭、神賀誠、菅家奈未、井村 隼

(3) 逝去6名（名誉4名、正2名）

名誉会員：小島丈児（6/1）羽田 忍（6/2）市原 実（8/4）、茅原一也（8/29）

正会員：阿久津純（5/4）、川上 廣（5/22）
逝去された6名の会員に対し評議員会出席者全員による黙祷が行われた。

(4) 会員の動静 (2006年8月31日現在)

	賛助会員	名誉会員	正会員(内 院生割引)	学生会員	合計
2006.4.30	34	74	4397(202)	27	4532
2006.8.31	34	76	4462(273)	39	4661
増・減	0	2	65(71)	12	79

(5) 総務部会を開催し(8/9, 8/30) 会員07年問題等の現状と今後について、会計委員会と共に検討した。

会計関係(会計委員長-佐々木和彦, 担当理事-向山)

- ・2007年度支部補助金(会員数に比例)を交付した。
- 北海道支部: 74,000円, 東北支部: 79,300円, 関東支部: 168,900円
- 中部支部: 110,100円, 近畿支部: 94,200円, 四国支部: 71,800円,
- 西日本支部: 101,700円
- ・7月までの会計報告
- ・総務部会において、会費徴収を確実にするための方策として、自動引き落とし推進キャンペーンなどの検討を進めている。

2) 広報委員会(担当理事-大友)

- ・高知大会のプレスリリースを行った(文部科学省の記者クラブおよび高知教育記者クラブ)
- プログラムを中央紙ほか高知地方紙にも配布した。
- ・プレスリリースの出口は広報委員会が一括。リリース先を検討しマニュアル化する。
- ・国際学会等での利用に備え、学会の英語ポスターを作成する。アウトリーチのための作業委員会を編成し、進めることとした。

2. 学術研究部会(部会長-久田, 公文, 増田)

行事委員会(担当理事-久田)

- ・高知大会一般発表登録数は552件(口頭252, ポスター230), シンポジウム9件(講演数74)。異議申し立てはなかった。
- ・高知大学から年会の後援を得て、会場費が無料となった。高知県から補助金が交付される予定、金額は未定。
- ・災害緊急展示は5件受付
- ・地質関連学会との連合開催を検討した。2008年以降の共催について、岩鉱学会から検討したいとの回答を得た。
- ・2008年の年会開催地について、正式な回答は得ていないが、東北支部として秋田での開催受け入れ方向で検討中との報告があった。
- ・事前登録を行う際、地方では中央大手銀行への振り込み手数料が高いことが問題との指摘があった。

2) 国際交流委員会(特任理事-公文)

- ・IYPEを機会に、イタリア地質学会の若手の会代表者より連携交流の申し入れがあった。
- ・インド地質学会、韓国地質学会との今後の交流について紹介された。
- ・アジア出身の会員を含めてWGの設置を検討してはどうかとの意見があった。
- ・各種国際会議について、「情報ネットワーク」の強化と連動し地質学会としての宣伝が必要との意見があった。

3. 編集出版部会(部会長-狩野, 久田, 宮下, Wallis)

1) 地質学雑誌編集委員会(担当理事, 編集委員長-狩野, 副委員長-久田, 宮下: 企画部会担当)

- ・地質学雑誌掲載論文の不足により、月例発行の危機と今後について検討。
 - ・今月の編集状況は以下の通りです(9月5日現在)。
 - 112-8: 論説4・短報1・口絵1, (52p) 発行済み
 - 112-9: 論説3・口絵1, (45p) 入稿中。ただし一週間程度の発行遅れが見込まれる。
 - ・本年度投稿論文数75編 [論説49(和文43・欧文6), 総説4(和文4), ノート2(和文2), 短報17(和文17), 討論3(和文3),] 口絵6(和文4・欧文2)
 - ・投稿数昨年比 +8 査読中55編
 - ・電子投稿・査読システム: 実際の投稿原稿での試行運用中。高知大会にてシステムのデモンストレーション(9/17ランチョン)と展示ブースでの体験コーナーを設置(JSTによる出展)。
 - ・科学技術振興機構(JST)の平成18年度の電子アーカイブ対象誌に地質学雑誌が選定された。これにより、創刊号から全ての号がアーカイブされる。
 - ・委員の交代: 坂島俊彦委員(企画部会応用地質専門部会)の辞任、柏木健司氏(富山大)に新委員を依頼。
 - ・見学旅行案内書の補完化に伴い、投稿規定の改正等を理事会に提案した。
 - ・特集号2件査読中: 日高衝突帯研究の最近の進歩-その深部過程と上昇過程/紀伊半島における中新世火成作用とテクトニクス
4. 普及教育事業部会(部会長-高橋, 倉本)
- 1) 地学教育委員会(委員長-阿部国広)
- ・高知大会における普及事業(小中高生地学研究発表会, 公開シンポジウム, 理科教員向け見学旅行)は、高知県および高知市教育委員会の後援を得た。また、小中高生研究発表会は日本地球惑星連合の後援も得た。
 - ・小中高生地学研究発表会に「優秀賞」を設けることを内規案添付のうえ普及事業部会を通じて理事会に提案した。

①地球惑星科学連合「教育問題検討委員会」(委員 阿部国広)

- ・中央教育審議会に対し、7月27日に提言書を提出した。
- 「すべての児童生徒が地球人としての科学リテラシーを身につけるために一義務教育段階での「理科」のあり方に関して」(資料回覧)

2) 生涯教育委員会(委員長-柴 正博, 担当理事-高橋)

高知大会での夜間小集会の開催と教育シンポジウムへの協力をした。

3) 地質基準委員会(委員長-新妻信明)

毎月開催される地質基準委員会において第二次地質基準の策定作業を行っている。

2006年12月の評議員会に「第二次地質基準案」を提出すべく、作業を進めている。策定された第二次地質基準に従って、Aランクの研究を紹介する「第二次地質基準」は、2008年9月に出版する計画である。

「海の地質基準」の出版準備作業も並行して進めており、掘削船「ちきゅう」の定常航海が開始する2007年9月の出版を計画している。

4) 地層名委員会(委員長-天野一男)

- ・第三紀, 第四紀問題についてワーキンググループを設置する。

5. その他(理事会関係の委員会等の報告)

- 1) 支部長連絡会議(担当理事-伊藤)
- ・9月17日(日)支部長会議開催予定。
- 2) 地質災害委員会(担当理事-天野)
- ・災害調査団を派遣
 - 2006年集中豪雨による長野県中南部の地質災害調査, 日本地質学会現地調査団 大塚 勉, 公文富士夫, 小坂共栄, 三宅康幸, 原山 智, 村越直美会員
 - ・昨年に続き地学教育委員会とともに、高知においても一般公開シンポジウム「防災教育と地質学: 子どもたちを災害から守るために」を開催する。

3) 日本地球惑星科学連合(木村会長, 久田連絡委員)

- ・連合の評議会メンバーとして会長に代わり、伊藤副会長を登録。
- ・次次期プログラム委員長候補者(次期副委員長)として、渡辺真人会員(産総研)を推薦。
- ・連合大会プログラム委員として、昨年に引き続き七山太, 片山肇の2会員を推薦。
- ・2007年度連合大会の日程が決定, 2007年5月19日(土)~24日(木)

4) ジオパーク設立推進委員会(担当理事, 委員長-佃)

- ・「地質事象100選」の候補収集を開始。この追加事象提案と選定作業のため、日

本地質学会からは高橋理事を担当者とした。

5) 情報ネットワークの強化について (情報特認担当理事-宮下)

- ・情報ネットワーク強化部員募集

II 各種委員会報告 (評議員会関係)

1. 各賞選考委員会 (委員長-酒井治孝)

- ・高知大会でのポスター賞選考について紹介された。

2. 名誉会員推薦委員会 (担当理事: 委員長-伊藤副会長)

- ・前年度審議手続き漏れとなった名誉会員候補者追加推薦選考を, 前期委員会 (加藤委員長) で行い評議員会に推薦した。

3. 学術会議報告 (木村会長・連携会員)

- ・地球惑星科学委員会国際対応分科会 IUGS小委員会の第1回会議が開かれ, 松本 良委員長を互選。

4. 女性地球科学者の未来を考える委員会 (委員長-大友幸子)

大学の助手の職階が変更になることについて問題提起があった。

5. 法務委員会・倫理規定策定委員会 (委員長・担当理事-上砂)

- ・学会が共催・後援する時限組織 (学会・発表会等の運営委員会等) による出版物について, 実施終了後の著作権の管理体制について, 今後検討する。原則的には, 当該組織からの要請があれば, 日本地質学会は著作権の移譲を受けて管理することとした。

- ・見学旅行案内書の地質学雑誌の補遺化に伴う「高知大会見学旅行案内書」, 「高知大会見学旅行案内書の表紙裏付, 奥付」「安全のしおり」等の, 著者, 案内書編集担当者らからの質問について, 法務委員会に対し検討要請があり, 検討を行い返答した。

- ・補遺化に際し生じている, 色々な齟齬については移行過程の問題として, 投稿規定の改正等を理事会に要請した。

6. オンライン化委員会 (委員長-斎藤 眞)

本年は, 昨年までの講演申し込みに加えて, 年会の参加登録のオンライン化を行った。しかし, クレジットカード決済は, 参加登録だけの場合はまだできず, トップツアー関係の宿泊手配等をした人だけ, サービスでトップツアーのクレジットカードの使用が可能であった。今後どう改善すべきか検討が必要である。

また, 講演申し込み期限の最終日に, サーバーのトラブルが発生した。アメリカのサーバーを用い, 国際回線を使っている業者のため, 原因がはっきりしないまま復旧した。こ

れも来年にむけての検討課題である。なお, 本年は地質学雑誌の査読のオンライン化の見込み (現在試行中)。

III 選挙管理委員会 (委員長-関 陽児)

- ・8月2日第1回選挙管理委員会を開催。
- ・今年度委員 (加藤 潔, 澤田啓啓, 関陽児, 高橋路輝, 西村瑞恵) の互選により, 委員長に関陽児を選出した。
- ・選挙規約に基づき, 今後のスケジュールを確認した。
- ・今選挙は, 代議員100名の改選を行い, 理事7名および評議員20名を改選する。
公示 9月10日
立候補受付 10月1日~31日
投票期間 11月15日~12月15日
開票日 12月18日
- ・公示に先立ち, News誌8月号に予告記事を掲載した。

IV その他

1. 第17回国際堆積学会議 (ISC2006) 成功裏に終了

ISC2006は福岡国際会議場を会場として, 8月27日から9月1日まで, 50カ国, 800人以上の参加者を得て, 大成功のうちに終了した。参加者やその国別の数字は集計中であるが, 中国や韓国の参加者が100名以上あり, ヨーロッパや北アメリカのみならず, 近隣のアジアからの参加者も多かった。参加人数のみならず, 企画や講演の質の高さもIAS執行部から高く評価された。

国際堆積学会議は国際堆積学協会 (ISA) が主導して4年に1度開かれるもので, 東アジアでの開催は今回が初めてであった。IAS, 日本堆積学会, 日本地質学会が共催し, 多くの学協会の後援をえて開催された。野外見学は国内19コース, 韓国2コース, 台湾1コースで行われ, 東アジアの堆積学者の協力を得て成功させることができた。今回は2010年に南米, アルゼンチンのMendozaで開催することが決まっている。地質学会および会員諸氏のご協力に深く感謝する。

V 理事会審議事項 (主なもの) 報告

1. 前期名誉会員推薦委員会で審議手続き漏れとなった推薦について, 前期名誉会員推薦委員会に審査を要請し, 当該被推薦者を名誉会員候補者として評議員会に追加推薦するという, 答申を受けた。追加推薦を評議員会に諮り, 評議員会議長より追加推薦承認の回答を受けた。臨時総会の開催, 当該候補者への配慮等も含め, 改めて状況を総合的に検討した結果, 総会招集権をもつ会長の判断として, 次年度の推薦者一括での指名を総会に諮るとの提案がなされ, 承認した。

2. 見学旅行案内書について, 学術的ステータス確保の方策について検討し, 高知大会巡検案内書から地質学雑誌のサプリメント化を実施することとした。地質学雑誌の編

集規約, 規定等において巡検案内書の位置づけを明記することを提案し, 編集過程や形式等は地質学雑誌に準じる指定を行う。高知大会は過渡的なこととして, 印刷物も出版し, 雑誌巻末号でCD添付による全会員への配布と, J-STAGEへの登録を行う。

3. 2007年度総会日程について検討した。5月20日 (日) 夕刻 (17:00-19:00等) の時間帯を候補として, 連合に依頼した。

4. “小中高生徒「地学研究」発表会”の「優秀賞」の授与提案を承認し, 基本的には学会長・普及教育担当理事・地学教育委員会委員の合計3名による選考委員会の設置を了承した。

5. 2006年度選挙管理委員会委員を選出。継続: 加藤 潔, 関 陽児, 高橋路輝, 新任: 西村瑞恵, 澤田啓啓

6. 地質学雑誌の原稿不足について検討し, 長期的な検討を早急に始める必要がある。基本的には投稿数・入校数の確保の方策をまず議論する。大会シンポジウムからの特集招聘を行うこと, 連載記事等の新たなカテゴリを考へる, 研究部会での企画を特集にする等を検討した。なお, 基本的には受理原稿がある限り, 欠号や合併号とせず, 1編であっても直近に予定通り出版することを原則とする。(→評議事項)

7. 「日本地質学会Island Arc賞」の新設提案と, それに伴う規約等の改正案が提示され, 従来の日本地質学会論文賞の規定の変更なしに, 新たに提案通りの「日本地質学会Island Arc賞」の設立方針を認めた。顕彰者名は, 地質学会会長とブラックウェル社の代表を併記とする。

8. 会員名簿発行については, アンケート回収が少ないため (200通ほど), 方針決定が不能。7割程度のアンケート回収を発行の最低条件として, 年度末までに到達しない場合には, 次年度に事業を繰り越さず, 名簿発行事業について根源的に検討し, 評議員会に提案する。なお, 今年度事業での発行に努め, アンケート回収手段をさらに検討し実施する。

9. 見学旅行案内書の補遺化に伴う, 編集規約等の改正案が提案され, 検討のうえ修正案を承認した。

VI. 評議員会メール審議の確認

前回の評議員会以後, 1回のメール審議を行った。

6月28日発議, 7月5日結審, 7月5日理事会に報告

議題: 名誉会員の追加推薦について

前期名誉会員推薦委員会で審議手続き漏れとなった推薦について, 前期名誉会員推薦委員会から当該被推薦者を名誉会員候補者として追加推薦がなされた。この件についての賛否評決を行い, 賛成と決した。さらに, その件の総会での議決方法についての意見集約を行った結果, 「高知大会において, またはそれ以前に臨時総会を開催する」という意見が

多数であった。

○評議事項

- 2008年以降の学術大会開催地および関連学会との共催について
 - 久田理事から2008年度秋田での開催予定が紹介され、以下の議論を踏まえて理事会で検討することとなった。
 - 2008年以降は、鉱物科学会（岩鉱学会と鉱物学会の統合学会）との共同開催も検討する。
 - 他学会との共催・連携についても今後検討する。
 - アジア諸国との連携・シンポジウム開催について提案があった。
 - IYPE (2007-2009) との関連について提案があった。
 - 2009年大会は西日本支部を予定。これにより支部持ち回りが一巡することから、その後も支部持ち回り制を維持するよう

提案があった。

2. 会員名簿の発行について、アンケート結果の報告と検討
 - 中山理事から、8月時点で200名弱しかアンケート回収が無い旨報告され、70%程度の回収のためにメ切を2006年12月とすることが紹介された。
 - 現行規約では名簿の発行は必要である旨、意見があった。
 - 12月の回収状況により、再度、検討することとなった。
3. その他
 - 1) Island Arc賞について、規約の一部改正(石渡)
 - Blackwell社からの提案と資金提供を受け、同賞を設定することとした。
 - 同賞の選考には、各賞選考委員会への諮問委員会（選考検討委員会）が当たる。

・選考検討委員は理事会で決定し、各賞選考委員会と調整することとした。（本号別掲載）

- 2) 地質学雑誌の現状と将来（狩野、宮下）
 - 原稿確保について議論され、継続審議となった。
- 3) 編集委員会規約および編集規約の改正（宮下）
 - 学術大会巡検案内書の地位向上のため、規約の改正を行いたい旨報告され、了承された。（地質学雑誌112巻9号巻末に掲載）
- 4) 院生・学生の学術大会懇親会費の軽減について（針金）
 - 上記について提案があり、すでに高知大会では「半額」を実現している旨紹介された。

CALENDAR

2006.11～

地球科学分野に関する研究会、学会、国際会議、などの開催日、会合名、開催学会、開催場所をご案内致します。会員の皆様の情報をお待ちしています。

☆印は、日本地質学会行事。

11月 November

○第7回こどものためのジオ・カーニバル

11月11日（土）～12日（日）

場所：大阪市立科学館

<http://geolo.sci.osaka-cu.ac.jp/geo/2006geo.html>

○日本応用地質学会平成18年度研究発表会

11月9日（木）～10日（金）

会場：熊本テルサ（熊本市水前寺公園）

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jseg/>

○地質調査総合センター第6回シンポジウム「地質情報の社会貢献を考える」

11月14日（火）13：30～18：00

（展示発表を含む）

場所：秋葉原コンベンションホール

お問い合わせ：

地質調査総合センターシンポジウム事務局
sympo06_gsj@m.aist.go.jp

○第2回国際シンポジウム“東および南アジアの地質学的解剖”(IGCP 516)

11月14日（火）～19日（日）

場所：フィリピン・ケソン市PASAGAサイエンスガーデン

<http://staff.aist.go.jp/hara-hide/igcp516>

○第51回地盤工学シンポジウム

11月16日（木）～17日（金）

場所 東京

<http://www.jiban.or.jp/top.html>

○平成18年日本地熱学会天栄大会

11月20日（月）～11月22日（水）

場所 福島県岩瀬郡天栄村 羽鳥湖高原交流促進センター

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/grsj/index.html>

○第6回地質学教養セミナー：「人類の活動域の形成過程と地球環境変動」

11月20日（月）13：00～17：00

会場：建設交流館801号室（グリーンホール）
増田富士雄 沖積層から探る地層累重様式のダイナミクス

柏谷健二 湖沼－流域系からみた地球環境変動－六甲瀬池からバイカル湖まで－

連絡先：断層研究資料センター

電話・FAX 06-6532-6218

E-mail: fred_c@orange.livedoor.com

12月 December

○第16回環境地質シンポジウム

12月8日（金）～9日（土）

場所：日本大学文理学部 百周年記念館 国際会議場

<http://www.jspmug.org/>

○2006年度日本情報地質学会シンポジウム

「Web-GISによる公開情報活用とその促進環境の新展開」

12月15日（金）9：30～17：00

場所：秋葉原ダイビル5階 5B会議室

<http://www.jsgi.org/>

○地質学史懇話会

12月23日（土）

場所：北とびあ701号室、

中陣隆夫 大学の成立と書物・出版の歴史

高柳洋吉 日本の有孔虫学－その流れをたどって－

<http://www.geocities.com/jahigeo/jahigeo51.html>

2007年

3月 March

○第41回日本水環境学会年会

3月15日（木）～17日（土）

場所：大阪産業大学

<http://www.jswe.or.jp/index.html>

○Second International Conference on the Geology of the Tethys

3月19日（月）～23日（金）

場所：Cairo University

Fax: 002-02-5728843

Tel: 002-02-5676887, 002-012 2926034

E-mail: elsayedyoussief2005@yahoo.com,

elsayedyoussief@hotmail.com

<http://geosociety.jp/calendar/2007-2nd-Tethys.pdf>

○日本地理学会2007年春季学術大会

3月20日（火）～22日（木）

（ただし総会・代議員会は19日）

場所：東洋大学

問い合わせ先：渡辺満久（東洋大学）

電話 03-3945-8288

http://wwwsoc.nii.ac.jp/ajg/home_J.html